

# 令和3年度 社会福祉法人慈照会事業計画

通常規模型通所介護事業  
認知症対応型通所介護事業  
短期入所生活介護事業  
介護老人福祉施設事業  
訪問介護事業  
居宅介護支援事業  
ケアハウス事業

## 令和3年度社会福祉法人慈照会事業計画

### 1. 基本方針

日本経済の先行きは、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に和らいでいくも、改善基調を辿るとみられるが、感染症の警戒感が続かなかで、そのペースは緩やかなものにとどまると考えられる。また、感染症の帰趨やそれが内外経済に与える影響の大きさによって変わりうるため、不透明感が極めて強い。ワクチン接種も始まったが、変異ウイルスの報告もあり、クラスター発生に備える緊張状態が続き、アフターコロナの新たな日常にはまだ時間を要すると考えられる。

4月の介護報酬改定では、新型コロナ感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年を見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を図る。科学的介護の推進では、ビッグデータとして蓄積された利用者情報の活用によってサービス利用の成果を予測することで、要介護者の状態像に合ったサービスの提供を行うことを目指す。改定率は0.7%となった。

事業存続のための次世代の介護人材の確保では、費用と時間をかけてリクナビによるオンラインを活用した新たな人材との接点づくりを継続し、学生、次世代(20代~30代)の職員採用に重点的に取り組む。定着では、働き方改革、介護・福祉機器、ICT、介護ロボット等のテクノロジーの積極的な導入、修繕及び備品の更新により職場環境の整備を計画的に進める。眠りスキャン、移乗用リフトWi-Fi インカムの有効活用をさらに推進する。

公益的な取り組みを継続し、地域の福祉ニーズを把握し、双方向の支え合いを進める。これらの社会福祉の視点は、人材確保の重要なファクターにもなってきている。地域共生社会の実現に向けて、地域社会の信頼と期待に応え、しっかりと未来を見据えた事業を展開していく。

新型コロナ禍の厳しい事業環境を生き残るには、変化に対応できるスピード感と柔軟性が必要であり、新しい取り組みに積極的に挑戦する組織への変革を進めたい。新たな介護報酬体系に対応しながら、細やかなマネジメントにより、着実に収入を確保するとともに、コスト削減にも積極的に取り組む。全職員でコロナ禍の難局を乗り切りたい。

#### ※重点目標

##### (1)次世代人材の確保・定着と働きやすい職場づくり

リクナビ(オンライン)による学生、次世代職員の採用強化、無資格者・未経験者の受入れ体制整備、介護・福祉機器、ICT、介護ロボットの導入、時間管理の徹底と残業時間削減、有給取得促進

##### (2)職員教育体制の充実とキャリアアップの推進

新卒・中途採用(無資格・未経験者)を育成する仕組みづくり、キャリア別施設内研修の実施、福祉用具・機器の積極的な学び、認知症研修会への積極参加、資格取得促進

##### (3)地域交流と貢献

新型コロナ感染症発生時の応援事業東近江事務局、地域の公益的な取り組みの推進、三方よし主催初任者研修への協力、滋老協副会長・東近江介護サービス協会会長・滋賀県介護サービス協役員施設としての活動、地域密着型介護事業運営推進会議の実施、東近江市社会福祉法人ネットワーク会議への発起人としての参画

## 2. 事業別重点目標

### 【通常規模型通所介護事業】(定員:30名)

70,000,000 円を収入目標とする

重点目標: ご利用者にとって質の高いサービスの提供、安心・安全な空間を目指す

感染症勉強会によって職員の知識、意識の向上を目指す。安心快適に過ごせるようレイアウトを変更する。事故苦情再発防止の取り組みとヒヤリハットの見直しにより事故苦情を未然に防ぐ。

### 【認知症対応型通所介護】(定員:12名)

7,400,000 円を収入目標とする

重点目標: 認知症ケアの向上と事故苦情の未然防止

勉強会を実施し、認知症ケアの向上を、利用人数増に結び付ける。ヒヤリハットの継続的な取り組みにより、事故苦情を未然に防ぐ。

### 【短期入所生活介護事業】(定員:16名)

80,000,000 円を収入目標とする

重点目標: 介護現場の革新により介護の質(価値)を高める。

5S、3M活動による生活環境の見直しを行うことで介護の価値を高めていく。介護ロボット等と人との共存により先進的な介護を行うことで介護の質を高めていく。

### 【介護老人福祉施設事業】(定員:54名)

200,000,000 円を収入目標とする

重点目標: 看取り介護体制の整備と福祉用具・ICT 機器の活用

看取り介護体制は県内の大部分の施設で整備されており、未整備の施設として看取りニーズの充足の為、体制整備を推進する。計画的な福祉用具、ICT 活用を負担にならないように進める。安全安心なケアを実施し、職員への負担軽減、入居者のリスク軽減、褥瘡拘縮予防を図る。

### 【訪問介護事業】

30,000,000 円を収入目標とする

重点目標: ご利用者の人生の困難な時期に関わる意識を持ったサービスの提供の実施

その人らしい普通の生活を安心安全に過ごしてもらうため、常にきめ細かく対応し、利用者には幸せを、介護者には負担のない介護をできるようにサービスを提供する。他の事業所、職種との連携に努める。

### 【居宅介護支援事業】

15,800,000円を収入目標とする

重点目標: ケアマネジメントプロセスの基本に立ち戻り、手順通りの計画作成に努める。

ケアマネジメントプロセスの理解、ケアマネジメントプロセスに則る請求・書類整理、事業所内担当者の密な情報共有と予定の確認に努める。

### 【ケアハウス事業】(定員:15名)

満床を維持し待機者を確保する

重点目標: 満床確保と維持

満床の確保と維持に重点を置きつつ、重度化してきている入居者への対応の強化を図る。認知症、精神疾患のある方の理解を深め、重度化予防のためにも活気ある生活を追求する。

### 3. 年間行事予定等

上半期		下半期	
4月		10月	入居者健康診断 職員健康診断・ストレスチェック 第2回総合避難訓練
5月	第1回総合避難訓練	11月	第3回理事会(上半期事業報告、補正 予算等) 第2回夜間想定避難訓練
6月	第1回理事会(事業報告・決算) 評議員選任・解任委員会 第1回評議員会(事業報告・決算、理 事選任) 第2回理事会(理事長選出)	12月	法人忘年会
7月	第1回夜間想定避難訓練	1月	年賀式
8月	カルナ納涼夏祭り 夏祭りお疲れ様会	2月	
9月	カルナハウス敬老式典	3月	夜勤者健康診断 第4回理事会(事業計画・予算)

※施設内会議

経営会議(月1回) スタッフ会議(週1回) 給食会議(月1回)

デイ会議(月1回) ショート会議(月1回) 特養会議(月1回) ヘルパー会議(月1回)

居宅介護支援事業所会議(月1回) ケアハウス会議(月1回) 事務会議(月1回)

※委員会活動等

研修教育体制プロジェクトチーム、環境整備委員会